

# 短期塾生報告

10月2日～3日、小阪区の青年会「美里会」と百姓養成塾が協働し、「休耕田の花畑作りプロジェクト」を実施しました。このプロジェクトには、NPO法人JUON(樹恩)ネットワークから若者4名が短期塾生として加わり、総勢20名が作業に参加しました。

短期塾生たちは、休耕となつている棚田10枚の草刈り、田おこし、種まき、獣害対策のネット張り等を体験しました。また両日とも、作業後には地元有志や美里会メンバーとの交流会があり、二泊三日と短い期間の滞在でしたが、色川の自然や人の魅力を満喫した滞在となったようです。

以下、短期塾生として参加した松岡弘之さんからの体験報告です。



美里会メンバーと短期塾生が協働で作業

## 「色川体験・大満足」

「おー、すごいところ…！」というのが色川に来て、最初に思ったことでした。京都から特急とバスを乗り継いで約5時間。バスから見える風景が紀伊山地の雄大な景色に占められた頃、円満地のキャンプ場に辿り着いた。

事前の案内の通り、携帯電話の電波は圏外で、周りには風に揺れる木々の音と、鳥のさえずりしか聞こえない晴れた空がとても気持ちよかつたので、迎えが来るまでベンチで寝ていたのはここだけの秘密です…。お迎えに来て頂いてからは、一通り色川を見せて頂いたのですが、顔を合わせる度にあいさつや四方山話をする光景が新鮮に感じてしまうのは、私が普段大阪のど真ん中で生活をしているからでしょうか。もちろん色川では普通の光景なのでしょうがね。

初日の夜は、お世話をしてくれたT岡さん達とカレーを作って食卓を囲んだが、一人一人の笑顔が印象に残っているのは、色川という土地がみんなに元気を与えてくれているからなんだろう



地元の人に教えてもらいながら、  
耕運機を使って田起こし

か。

二日目の朝、ご飯を食べて元気をつけようと調理場を向かうと、昨日の夜に用意されていたおにぎりが何者かに食べられていた…！うーむ、山間部の獣害は深刻とは聞いていたものの、まさか自分達が被害に遭うとは想定していなかったのもので、その場でしばらく「？」と考え込んでしまいましたが、自分が実感することで山間部の生活の一面を垣間見たような気がしました。

その後は、休耕田となっていた棚田に花の種を植えるためのお手伝いをさせて頂いたのですが、正直お手伝いになったかは微妙なところ…(笑)。ただ、キレイに耕された田んぼを見ると、「おー、何か頑張った感がある！」と感じてしまうのは不思議ですね。

一緒に作業させていただいたK治さんはじめ地元の方々も、私たちを温かく迎え入れてくれたのがとても有り難かったです。にしても、作業の段取りや時間等が微妙にアバウトなのが、普段時間に追われた生活をしている身からすると、逆に新鮮で気楽だったりするのです。

三日目は怪しい空模様だったものの、午前中に予定していた電気柵の設置も無事終わり、午後からの交流会を迎えることができました。作業が終わった頃を見計らったように降り出した雨ではありましたが、そんな雨は関係ないと言わんばかりに、宴は盛り上がりました。私も調子に乗ってしまい、小阪区長はじめ、お歴々とお話をさせていただきましたが、皆さん本当にお元気です。自分の中に思いがある、というのは本当に大事なことで、大げさにいえば生きる糧があるということだと思のですが、皆さんそれ



「色川のために」と真摯な思いを語りあった交流会

ぞれに「色川のために」ということで様々な思いを持っていて、それをぶつけ合って、より良い色川にしていきたいという気持ちが、私にもすぐ伝わってきました。

今回の色川体験ツアーに参加して、私は素直に良かった！と言えます。街からは遠い色川ではありますが、その距離感を補って余りある土地と人の魅力があると思います。

そして、今回のツアーを通じて、もっと色川を体験したいとも思いました。地元の料理と一緒に作ってみたり、農作業もじっくり取り組んだり、四季それぞれの色川を味わってみたいとも思います。もし、今後このようなツアーを取り組んでいくのであれば、私の考えとしては、短期でスケジュールを区切るのではなく、一年という期間を基本として、その時期に応じて企画があれば、と思います。色川の魅力を知ってもらうには、長期での取り組みがよいのではないかと思います。

<sup>i</sup> 休耕田に花の種をまき、休耕している棚田の利活用、住民と若者の交流、地域の名所となるような花畑づくりを目指すもの

<sup>ii</sup> <http://juon.univcoop.or.jp/>